

# 〈ケア〉を考える会 (第175回)

■日時：2024年5月12日(日) 13:30~15:00

■会場／参加方法 ※申し込みが必要です(氏名、携帯番号、メールアドレスをお知らせください)

①「宅間歯科医院」の3階

京都市下京区万寿寺町137

地下鉄「烏丸五条」駅1番出口から東へ250m

歯科医院の建物の裏側(北側)階段から3階に上がる

② オンライン(Zoom) ……会場より発信します

■当日の大まかな予定

13:00 ⇒ 有志集合…会場準備等

13:30~ ⇒ 講演と対話

15:30頃~ ⇒ 懇親会

17:30頃~ ⇒ 片付け、終了

■テーマ：「人に寄り添う、ケアとはどういうことが

——被災地や苦の現場で見えること

能登半島地震の報告も踏まえて」



■話者：ジャーナリストの北村 敏泰 さん

(元・読売新聞大阪本社記者、デスク、編集局部長、中外日報編集局長を経て現在はフリーで、例えば宗教者らの社会貢献活動などを取材・発信)

※プロフィール、業績紹介サイト

<http://tkitamura.web.fc2.com/>

※Facebookで論説など発信

<https://www.facebook.com/toshihiro.kitamura.3>



能登半島地震は、発生から3か月以上が経っても、倒壊した住宅の多くは放置されたまま。今なお避難生活を余儀なくされる人たちが多く、断水などで当面の生活再建さえままならない。インフラ復旧も含めて、従来の激甚災害、例えば熊本地震などに比べても現況改善の歩みは非常に遅いです。

防災当初から早速現地に駆け付けた多くの支援者の動きをフォローし、2月始めに4日間にわたって輪島や珠洲で炊き出しなどのボランティア活動に加わり、悲惨な状況を見てきた立場、その経験から、このような緊急の被災地での寄り添いで何が見えて来たのかを話したいと思います。

そこでは、私が東日本大震災など過去10数年間にわたって取材し続けてきた、困窮者を支える様々な取り組みと同様に、ある段階で「支援する」「される」、「助ける」「助けられる」という立場性を乗り越える「助け合い」つまり「共苦」の関係性がごく自然に現出しました。

写真を多用したパワーポイントで話します。(北村)



■懇親会：15:30~17:30

食べながら飲みながら語り合います(持ち込み歓迎)

■参加：どなたでも参加できます。初参加歓迎。参加費無料(懇親会参加者は2,000円)

■申込／問合せ：林道也まで ⇒ [michi-care@outlook.jp](mailto:michi-care@outlook.jp) 090-5366-1497

〈ケア〉を考える会 Zoom ミーティング

ミーティングID / パスコード / URL ⇒ 申込者にお知らせします。



■ 6月例会：6月2日(日)13:30~ 「よりあい場あ(BAR) ねむの木」(真備町)で開催予定(Zoom オンライン有)

■ 7月例会：7月7日(日)13:30~ 「よりあい場あ(BAR) ねむの木」(真備町)で開催予定(Zoom オンライン有)